

## 4 婦人保護施設



【定員：30人】

### 施設の運営理念・方針

- 利用者個人の尊厳と権利を守ることに努めます。
- 安全安心な生活環境の確保に努めます。
- 利用者一人ひとりの自己実現と福祉の向上が図られるよう努めます。
- 様々な問題を抱えて入所してきた女性（利用者）に、次のことを支援します。
  - ・利用者各個人の抱える問題解決の支援
  - ・利用者の自立のための支援
  - ・社会人としての必要な教養講座、生活技術習得等の支援
  - ・安全安心な生活環境づくり
  - ・心身の健康保持・増進
  - ・利用者の個人情報保護

## 1 施設の目指すべき姿

○複合的な問題を抱えた利用者に対して様々な支援に取り組み、利用者が個人として尊重されるとともに、社会の一員として安心して地域社会で生活できるように、切れ目のない支援を行います。

○県内唯一の婦人保護施設として、県女性相談センター等との緊密な連携を図り、婦人保護施設の認知度を高め、利用者の入所支援に努めます。

## 2 施設を取り巻く環境

- ・ 婦人保護事業は、1956(S31)年の売春防止法に基づき要保護女子を保護する事業として発足し、その後、支援ニーズの多様化に伴い家庭関係の破綻や生活困窮等の問題を抱える女性の支援に事業対象を拡大してきました。更に、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV法）」の関係法令の制定に伴い、その被害者がそれぞれ事業対象として順次明確化され、現に支援や保護を必要とする女性の支援に大きな役割を果たすようになっていきます。
- ・ このような中、国においては「困難な問題を抱える女性への支援のあり方に関する検討会（2018(H30)年7月）」を設置し、制定以来抜本的な見直しが行われていない売春防止法の規定を含め、婦人保護事業のあり方について、現在議論が進められています。具体的には、現行の枠組みでは対応できない複合的な問題(DV、性暴力、貧困、家庭破綻、障害等)を抱えた女性への支援をはじめ、社会の状況にマッチした同事業の見直し、同事業につながりにくい若年女性への支援等について検討・協議がなされています。
- ・ 婦人保護施設は、現在、婦人相談所の措置決定に基づき、要保護女子、DV被害者等の保護、自立のための支援を行っていますが、全国的に入所者数及び定員は年々減少しており、本県でも、当施設は県内唯一の施設ですが、入所者数が少ない状況が依然として続いています。その中で、国の検討会の動向によっては、婦人保護施設の役割や機能について、近い将来、さらに充実・強化が求められることも考えられます。



書道教室



陶芸教室

### 3 施設における課題

- ・ 国における検討会の議論の状況によっては、法制度の見直しも想定されることから、その動向を注視しながら、婦人保護施設に求められる役割や機能を果たすために、弾力的に対応していく必要があります。
- ・ 利用者は、暴力被害者や帰住先のない女性がほとんどを占め、自立の困難性を伴う場合が多く、利用者の心の安定と健康管理に留意しながら、利用者個人の状態に即した、より専門的な心理的ケアが必要となってきています。
- ・ 複合的問題を抱える利用者、様々な困難な課題を抱える利用者のニーズに対応し、きめ細かな支援を行うことが重要であり、一層の個別支援の充実を図る必要があります。また、退所後の支援も課題となっています。
- ・ 当施設は、現在、原則単身女性のみを入所対象としていますが、全国的には同伴児を受け入れ母子での利用が可能な婦人保護施設もあり、今後、そのような対応の必要性も高まってきます。
- ・ 利用者の支援について、抱える問題の特性に応じて、県女性相談センターをはじめ、警察や福祉事務所等関係機関との緊密な連携やネットワークの構築が必要です。



居室



集会室兼談話室



玄関ホール



居室階廊下

## 4 計画の目標

### (1) 質の高いサービスの提供

- 利用者の気持ちに寄り添いながら複合的な問題解決に向けて、利用者の意思、自己決定を尊重し、ニーズに応じた自立支援に取り組みます。特に、心の回復支援など心理的ケアへの対応を検討します。
- 利用者のニーズに応じた個別支援の充実を図るため個別支援計画の見直しを行い、相談対応や経済的自立に向けての就労支援はもとより、精神疾患や発達障害を併せ持つ利用者への支援の強化、疾病等で就労困難な利用者に対する日中活動の充実に努め、社会生活適応能力の向上を図ります。また、利用者が退所後も相談できるような信頼関係を構築します。
- 利用者一人ひとりのニーズに合った質の高い支援を行うために、福祉サービス第三者評価の受審や継続的な自己評価を実施し、サービス内容の検証・改善に努めます。
- 今後、必要性が高まってくる同伴児の受け入れについて、関係機関と協議を行いながら検討を行います。

#### 《重点的な取組》

- ・ 個別対応職員や心理療法担当職員の配置と個別支援計画に基づく個別支援の充実
- ・ 第三者評価受審と受審結果に基づくサービス改善の取組強化



七夕



心理士による個別面談



生け花教室



地域生活移行支援

## (2) 地域福祉の推進

○退所した女性の交流の場をはじめ、地域で生活する退所者の生活の困りごとを把握しサポートを行うなどの支援体制の構築を図ります。

○配偶者等からの暴力対策の啓発活動である「女性に対する暴力をなくす運動」へ参加するとともに、施設の役割や機能についての関係機関への理解と周知を図ります。

### 《重点的な取組》

- ・ 退所者の地域生活を支えるための交流機会の確保と支援体制の検討

## (3) 経営基盤の強化

○県女性相談センター等関係機関と連携を図り、支援を必要とする女性を積極的に受け入れます。

○月次実績報告等を活用して、経営意識の醸成を図るとともに、業務の見直しや経費節減等を行い、施設の効率的な管理運営や事業執行に努めます。

### 《重点的な取組》

- ・ 関係機関との連携強化と要支援者の積極的な受け入れ



調理実習



ヨガ教室



#### (4) 人材の育成

○業務で必要とされる法令の理解や利用者の特性を踏まえた支援技術の向上を図るための研修会を開催するとともに、計画的に各種研修会へ参加し、職員のスキル向上を図ります。また、専門性の向上や利用者への関わり方について、施設内で職員が講師となって勉強会を毎月実施します。

○母子生活支援施設と合同で各関係機関の講師による専門研修・法令等の研修を実施し支援技術の向上を図ります。

○OJTによる応用力の高いスキル習得など職員の育成に努めるとともに、職員一人ひとりのキャリアに合わせた研修への参加に努めます。

○利用者のニーズの多様化・複雑化に的確に対応するため、専門研修の充実・強化に努めます。また、心理専門家等を交えたコンサルテーションを実施し、支援の質の向上を図ります。

##### 《重点的な取組》

- ・ 職員の専門性を高めるための外部研修への計画的な参加
- ・ 外部講師による母子生活支施設との専門研修・法令等研修会の実施



母子生活支援施設との合同研修



社会見学



利用者の作品(生け花教室)

## 5 保育所 同胞保育園



【定員】 保育所：150人  
学童クラブ：27人

### 施設の運営理念・方針

「のびのびと健やかな体と思いやりのあるやさしい心をそだてよう」

「子どもの主体性を生かし、動と静を大切に豊かな感性をそだてよう」

- 一人ひとりの個性・感性を大切にして、様々な環境の中で子どもの育ちを見守る保育を行います。
- 子ども・保護者・地域の方と共に、活動を通して笑顔あふれるふれあいの場を大切にしていきます。
- 地域子育て支援の拠点として、子育て相談や地域の子育て家庭の交流を積極的に行います。

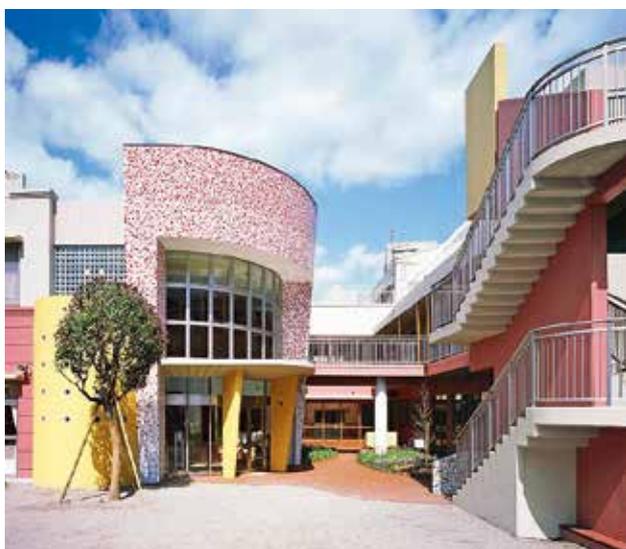
〒892-0819 鹿児島市柳町3-20  
TEL：099-222-2654 FAX：099-222-2694  
E-mail：douhou@kagoshima-swc.jp

## 1 施設の目指すべき姿

- 一人ひとりの個性・感性を大切にし、子ども・保護者の思いに寄り添い、子どもの「育ちを見守る保育」に心がけていきます。併せて、養護と教育が一体となった保育の提供に努め、子どもの最善の利益を保障します。
- 保育園に併設している地域子育て支援センターや学童クラブと一体となり、乳幼児期から学童期まで切れ目のない支援を行うとともに、地域の子育ての拠点としての取組を行います。
- 地域や関係機関との連携・交流を深め、地域から愛され、必要とされる保育園を目指します。

## 2 施設を取り巻く環境

- ・我が国では、急速な少子化の進行、生活スタイルや雇用形態の多様化など社会のあらゆる面で大きな変革期を迎え、子どもや子育て家庭を取り巻く環境も大きく変化しています。
- ・待機児童問題については、最優先の課題である待機児童を解消するため、「子育て安心プラン」を前倒して、2020年度末までに32万人分の受け皿整備を進めることとしています。
- ・また、2019年10月の消費税引上げに併せて、人づくり革命の一環として、幼児教育無償化を一気に加速し、3歳から5歳までの全ての子ども達の幼稚園、保育所、認定こども園の費用を無償化することとし、0歳から2歳児については、待機児童解消の取組と併せて、住民税非課税世帯を対象として無償化を進めることとしています。



外観



夜景

- ・県では、「かごしま子ども未来プラン 2015 (H27)」、鹿児島市では「子ども・子育て支援事業計画」を策定し、国の政策を踏まえて地域における施策・事業を総合的に推進しています。
- ・市の「保育所等整備計画(2015 (H27)～2019 年度)」においては、2015 (H27) 年度から 2017 (H29) 年度にかけて 1,313 人分の入所定員の拡大を図っていますが、更に、2018 (H30)・2019 年度に新たに 760 人分の定員増を目標にして、待機児童解消策を講じることとしています。そのため、当施設にも、引き続き、保育の受け皿拡大を要請されています。
- ・少子化や核家族化、地域とのつながりの希薄化の進行、共働き家庭の増加等を背景に様々な課題が拡大、顕在化している中、保育所の果たす社会的な役割は近年一層重視されています。このような状況の下、2018 (H30) 年 4 月に新たな保育所保育指針が示され、全ての子どもの健やかな育ちの実現へとつながる取組が、着実に進められていくことが求められています。
- ・乳幼児の育児不安や孤立感を抱える保護者が増加し、家庭や地域の養育力は低下しています。このようなことから、鹿児島市では、すこやか子育て交流館や親子つどいの広場、地域子育て支援センターなど地域の子育て支援の拠点を整備し、子育ての不安感等を緩和し子どもの健やかな育ちを支援する取組を行っています。



5歳児保育室



0歳児保育室



子育て支援センター



靴箱

### 3 施設における課題

- ・当施設が立地する鹿児島市北部の上町地区は、比較的待機児童が少ない地区ですが、近年、隣接地域にマンションの建設が予定されたり、鹿児島駅周辺の再開発が進められるなど保育ニーズが高まることも考えられることから、地域の状況も見極めながら、地域の拠点保育所としての役割を果たしていく必要があります。
- ・待機児童解消をはじめとする地域の保育ニーズに対応するため、現在、市の要請を踏まえ、定員を上回る多くの子どもを受け入れています。安定した運営を行うためには、保育士の確保が最優先の課題となります。そのためには、保育士がやりがいと希望を持って働ける職場環境づくりを行う必要があります。
- ・一人ひとりの個性を大切にしながら、集団活動を行うことができるよう支援の充実を図り、保護者ととも障害や発達上の課題などに適切に対応するため、保育士の支援技術の向上や専門性のスキルアップが必要です。
- ・乳幼児期から学童期まで継続的な支援を行うことができるよう、地域の様々な専門機関との連携を図りながら、地域子育て支援センターや学童クラブを併設する保育所としての役割を果たしていく必要があります。
- ・当保育園は、2009(H21)年に全面改築を行っていますが、子どもの安全な保育環境を確保する観点から、必要に応じて施設・設備等の点検・修繕を計画的に行うとともに、保育環境や食育環境の向上に努める必要があります。



保育室の様子



七夕かざり



運動会 in 鴨池ドーム

## 4 計画の目標

### (1) 質の高いサービスの提供

- 一人ひとりの個性・感性を大切に、健やかな体と優しい心を養うための保育を行うとともに、安全・安心な保育環境の整備を行い、子どもの育ちを見守る保育園づくりに努めます。
- 障害のある子や支援を要する子に対し、臨床心理士や作業療法士、理学療法士による幼児保育相談の機会を増やし、一人ひとりの個性を大切にしながら保護者や関係機関と情報を共有し、支援内容の充実を図ります。
- 乳幼児期における食に関する習慣の定着と食を通して人間形成や家族関係づくりによる心身の健全育成を図るため、保育士、栄養士、調理員、看護師等が協力して食育を推進していきます。
- 学校や地域と連携を図りながら、子どもの発達や養育環境の状況等を把握し、自主性、社会性及び創造性の向上と基本的な生活習慣の確立など、子どもたちの健やかな成長を支援します。
- 福祉サービスについて、第三者評価や利用者アンケート等を通じて施設の課題と保護者のニーズを明確にし、サービスの質の向上を図ります。
- 全面改築後 10 年が経過していることから、外壁や屋上スペースの再整備等の保育環境の整備を計画的に推進し、子ども達にとって快適で安全・安心な保育園づくりに努めます。

#### 《重点的な取組》

- ・ 専門職を活用した幼児保育相談の充実
- ・ 第三者評価受審と受審結果に基づくサービス改善の取組強化



川内自興園での芋掘り交流



体操教室



水遊び



生活発表会



クッキング

## (2) 地域福祉の推進

- 地域との交流を積極的に行うことにより、地域に愛される保育園を目指すとともに、災害時における相互の協力体制の構築を図ります。
- 保護者の子育て等に関する相談等に対応するため、関係機関や専門機関との連携を図り、きめ細やかな支援につなげることにより、地域福祉の推進を図ります。
- 学童クラブの取組を各小学校や地域住民等へ情報提供するなどして地域との連携を図り、子どもを見守る体制を強化します。
- 地域子育て支援センターにおいては、地域の子育て家庭に対する相談支援を行うとともに、子育てに関する情報提供等を行い、育児不安等の解消に向けた支援に努めます。

### 《重点的な取組》

- ・ 地域子育て支援センターの充実
- ・ 地域福祉館等の地域資源の活用と積極的な地域交流



地域のお年寄りとの交流(クリスマス会)



子育て支援センター(音脳リズムマッサージ)

## (3) 経営基盤の強化

- 入所児童の確保と特別保育事業（延長保育・一時預かり事業・障害児保育・療育支援）の充実を図りながら経営の安定化に努めます。
- 月次実績報告等を活用して、経営意識の醸成を図るとともに、業務の見直しや経費削減等を行い、施設の効率的な管理運営や事業執行に努めます。
- 幼児教育無償化制度の実施に伴う業務について、市や関係機関と連携を図り、円滑な対応を検討します。

### 《重点的な取組》

- ・ 待機児童解消のための更なる保育士の確保

#### (4) 人材の育成

○一人ひとりの個性・感性を大切にし、子どもの育ちを見守る保育を提供するため、保育技術の向上に努めるとともに、保育士の専門的な知識の習得を図ります。

○保育士のキャリアアップに繋がる専門研修へ積極的に参加し、保育士一人ひとりの専門性を高めます。

○保育士の確保及び定着を図るため、様々な働き方に対応し職員が働きやすい職場環境づくりに努めます。

##### 《重点的な取組》

- ・ 障害特性に応じた専門研修の実施
- ・ 新任保育士の育成の強化



施設別研修



学童クラブの様子





## 6 保育所 鹿児島みなみ保育園



【定員：110人】

### 施設の運営理念・方針

子ども一人ひとりに寄り添い、保護者や地域との連携・交流を通して“みんなから愛される保育園”を目指します。

- 知育・徳育・体育をバランスよく身につけ素直で優しい心や、相手に対する思いやり、頑張った時の達成感を感じることでできる子どもを育成します。
- 「ありがとう」「ごめんなさい」を素直に言える子どもを育成します。
- 最後まで頑張れる子どもを育成します。

〒890-0068 鹿児島市東郡元町 18-3  
TEL : 099-253-3145 FAX : 099-253-3146  
E-mail : k-minami@kagoshima-swc.jp

## 1 施設の目指すべき姿

- 子ども・保護者一人ひとりの思いに寄り添い、個々を大切にされた保育サービスを提供します。
- サービスの提供にあたっては、知育・徳育・体育をバランスよく養い、素直で優しい心を育て、自己の達成感を感じることでできる子どもを育成します。
- 保育内容や保育環境を常に見直しながら、保護者が安心して子どもを託せる保育園の運営を行います。
- 地域や関係機関との連携・交流を深め、地域から愛され、必要とされる保育園を目指します。

## 2 施設を取り巻く環境

- ・我が国では、急速な少子化の進行、生活スタイルや雇用形態の多様化など社会のあらゆる面で大きな変革期を迎え、子どもや子育て家庭を取り巻く環境も大きく変化しています。
- ・待機児童問題については、最優先の課題である待機児童を解消するため、「子育て安心プラン」を前倒して、2020年度末までに32万人分の受け皿整備を進めることとしています。
- ・また、2019年10月の消費税引上げに併せて、人づくり革命の一環として、幼児教育無償化を一気に加速し、3歳から5歳までの全ての子ども達の幼稚園、保育所、認定こども園の費用を無償化することとし、0歳から2歳児については、待機児童解消の取組と併せて、住民税非課税世帯を対象として無償化を進めることとしています。
- ・県では、「かごしま子ども未来プラン2015(H27)」、鹿児島市では「子ども・子育て支援事業計画」を策定し、国の政策を踏まえて地域における施策・事業を総合的に推進しています。



2階テラス

- ・市の「保育所等整備計画（2015（H27）～2019 年度）」においては、2015（H27）年度から2017（H29）年度にかけて1,313人分の入所定員の拡大を図っていますが、更に、2018（H30）・2019年度に新たに760人分の定員増を目標にして、待機児童解消策を講じることとしています。そのため、当施設にも、引き続き、保育の受け皿拡大を要請されています。
- ・少子化や核家族化、地域とのつながりの希薄化の進行、共働き家庭の増加等を背景に様々な課題が拡大、顕在化している中、保育所の果たす社会的な役割は近年一層重視されています。このような状況の下、2018（H30）年4月に新たな保育所保育指針が示され、全ての子どもの健やかな育ちの実現へとつながる取組が、着実に進められていくことが求められています。
- ・乳幼児の育児不安や孤立感を抱える保護者が増加し、家庭や地域の養育力は低下してきています。このようなことから、鹿児島市では、すこやか子育て交流館や親子つどいの広場、地域子育て支援センターなど地域の子育て支援の拠点を整備し、子育ての不安感等を緩和し子どもの健やかな育ちを支援する取組を行っています。



ホール



玄関



保育室



保育室トイレ

### 3 施設における課題

- ・当施設が立地する鹿児島市中央部の鴨池地区は、商業施設、病院、企業等が多く、働く親にとって利便性の高い立地条件にあります。このように保育需要が比較的高いこの地域の保育園として、保育士の確保など保育環境を整え、地域の保育ニーズに積極的に対応していく必要があります。
- ・待機児童の解消をはじめ地域の保育ニーズに着実に対応するためには、保育士の確保が最優先の課題であり、そのためには保育士がやりがいと希望を持って働ける職場づくりを行う必要があります。
- ・個々を大切にしたい保育サービスを提供するためには、常に保育技術の向上に努めるとともに、保育士の専門的な知識の習得を図る必要があります。
- ・地域の育児不安や孤立感を抱える子育て中の親に対し、子育ての不安感を緩和し、子どもの健やかな育ちを促進するため、地域の子育て支援の充実を図る必要があります。
- ・当保育園は、2011（H23）年に全面改築を行っていますが、子どもの安全な保育環境を確保する観点から、必要に応じて施設・設備等の点検・修繕を計画的に行うとともに、保育環境や食育環境の向上に努める必要があります。



ずもう大会



遊具遊び



テラスでの野菜作り

## 4 計画の目標

### (1) 質の高いサービスの提供

- 新しい保育所保育指針をはじめ事業団基本理念、園の保育理念に基づき、心身ともに豊かで健やかに育つための教育・保育の内容に転換し、保育環境の充実を図るとともに、保護者が安心して子どもを託せる保育園を目指します。
- 福祉サービスについて、第三者評価や自己評価、利用者アンケート等を通じて施設の課題と保護者ニーズを明確にし、サービスの質の向上を図ります。
- 障害のある子や支援を要する子に対し、臨床心理士や作業療法士、言語聴覚士による幼児保育相談会や保護者向けのセミナーを開催し、一人ひとりを大切にしながら保護者や関係機関と情報を共有し、支援内容の充実を図ります。
- 子どもの保育環境の安全確保の観点から、防災面については各種訓練を行うとともに、健康状態の把握に努めながら感染症・食中毒の予防のため、衛生意識の向上を図ります。
- 子どもの事故防止を図るため、職員会議等でヒヤリハット・事故報告書の要因分析や情報共有を図りながら、再発防止に努めるとともに、危険に対する気づき、予測、回避能力の向上に努めます。
- 全面改築後9年が経過していることから、保育環境の整備を推進し、利用者に評価され、選ばれる保育園づくりに努めます。

#### 《重点的な取組》

- ・ 専門職を活用した幼児保育相談の充実
- ・ 第三者評価受審と受審結果に基づくサービス改善の取組強化



リズムダンス



園庭遊び



クッキング



川内自興園での芋ほり交流

## (2) 地域福祉の推進

○地域の子育て世帯を対象とした子育て支援事業の充実を図り、子育てに関する不安感の緩和に努めます。

○地域から愛される保育園づくりを目指し、地域行事に積極的に参加するとともに、世代間交流の場を積極的に展開します。

### 《重点的な取組》

- ・子育て支援事業（にこにこランド）の内容充実
- ・地域における世代間交流行事の充実



にこにこランドの様子



1日保育参加



地域お年寄りとの交流

## (3) 経営基盤の強化

○入所児童の確保と特別保育事業（延長保育・一時預かり事業・障害児保育・療育支援）の充実を図りながら経営の安定化に努めます。

○月次実績報告等を活用して、経営意識の醸成を図るとともに、業務の見直しや経費削減等を行い、施設の効率的な管理運営や事業執行に努めます。

○幼児教育無償化制度の実施に伴う業務について、市や関係機関と連携を図り、円滑な対応を検討します。

### 《重点的な取組》

- ・待機児童解消のための更なる保育士の確保

#### (4) 人材の育成

- 個々を大切にされた保育サービスを提供するため、保育技術の向上に努めるとともに、保育士の専門的な知識の習得を図ります。
- 安定的に保育士を確保するため、積極的に情報発信を行うとともに、職員が働きがいのある職場環境づくりを行います。
- 施設内研修や保育士相互の保育参観など保育技術の向上を図ります。
- 日誌等のIT化による業務の合理化を進め、職員の負担軽減を図るとともに、新任保育士が継続して働く事ができるよう、職員一人ひとりが生き生きと輝いて活躍できる職場づくりに努めます。
- 新任職員に対して、直接指導者による育成の充実を図ります。

##### 《重点的な取組》

- ・ 新任保育士の育成の強化（マニュアル作成・研修の充実等）



施設別研修



生活発表会 in 鹿児島市民文化ホール



運動会 in 鴨池ドーム

